

【目次】

1. アーカイブ No.27

連載「日本労働会館物語」第 24 回 2011.03.29 発行の第 28 号に掲載
＜社会主義研究会前史—『六合雑誌』と村井知至＞

2. 3/15(土) 出張講演・UAゼンセン富山県支部・第4期「富山塾」②18名

3. 3/17(月) 団体見学・連合東京新人研修会 3 名

4. お知らせ

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.27

連載「日本労働会館物語」第 24 回 2011.03.29 発行の第 28 号に掲載

＜社会主義研究会前史—『六合雑誌』と村井知至＞

本連載では村井知至(むらいともよし、1861～1944)が、明治 27 年(惟一館竣工)から明治 34 年(社会民主党結成)頃までの『六合雑誌』に発表した論文や講演について紹介いたします。

日本社会主義運動史にその名を残す村井知至は、安部磯雄(日本社会主義運動の父、日本ユニテリアン弘道会会長)とは同志社の同級。この二人に岸本能武太(宗教学者、日本ユニテリアン弘道会副会長)を加えた 3 名は、「同志社の三幅対」と呼ばれるほど「生涯変わらぬ親密な交友関係を築きあげた」ことで知られています。

村井は明治 22(1889)年に渡米し、アンドヴァー神学校を卒業しますが、同校で片山潜と知り合い、その交友関係は帰国後も続きます。彼はその後、再渡米し、アイオワ大学で社会学を学んで帰国した 1897(明治 30)年に、ユニテリアン教会・惟一館の説教者となっています。

明治 31 年 10 月、惟一館を拠点に社会主義研究会が結成されると、その会長に就任します。明治 32 年には「日本人の手による社会主義概説書の先鞭」をつけたとされる『社会主義』を出版し、キリスト教社会主義者として知られることとなります。

また、村井は東京外語学校の教授を務めた英語学者でもあり、その「英作文教科書は第二次世界大戦後も高校生用英語教材として版を重ね」ています。今日、英語学者としての村井知至の名前を知っている人はいても、社会主義者としての彼の名を知っている人は少ないようです。

村井知至の名前が最初に『六合雑誌』に登場するのは、惟一館竣工後まもない明治27(1894)年5月の第161号「基督の教に関する歴史的な研究法」で、同名論文は次号にも掲載されます。次いで同167号に「使徒保羅の基督論」が掲載され、その後しばらく登場しませんが、明治31(1898)年1月の『六合雑誌』第205号に「欧米大学々生社会事業」が、同208号に「『基督の名により』てふ觀念に就いて」が、同211号に「予が信仰變遷の三時期」が掲載されます。

そして『六合雑誌』第216号に「『ユニテリアニズム』の本領」が、同222号に「基督教の社会的方面」が、同第225号に「基督教の新傾向」が、同第227号に「日本ユニテリアン教会の真相」が、同第238号に「近時我国に於ける宗教思想の傾向」が、第241号に「社会の三大思想を論じて社会主義に及ぶ」が登場します(講演記録は略)。

村井はまた、明治32(1899)年5月頃から惟一館の日曜演説会に、しばしば弁士として登場するようになります。『六合雑誌』の「惟一館の日曜演説」記事によると、以下の通りです。

明治32年5月21日・「マシウ・アーノルドの宗教思想」、同28日・「保守的基督教の根本的誤謬」、6月4日・「健全なる国民の三大要素」、同11日・「正に廃すべきもの三つ」、同18日・「教育の道徳的感化」、同25日・「国民統一の宗教」、7月2日・「夏季の宗教」、9月17日・「金銭の価値」、同24日・「理想と現実」、10月8日・「吾党の立場」、同15日・「労働の神聖」、同22日・「我と人と神」、11月5日・「予が理想する宗教的生活」、19日・「盲者の声」、同26日・「宗教的信仰の動機」、12月3日・「欧米思想界の変調」、同10日・「徳育問題に就て」、同17日・「米国ゆにてりあんの思想の潮流」、同24日・「異端家としての基督」。翌明治33年1月14日・「撰妻論」、同21日・「予が人生観」、2月4日・「予は如何なる書籍を読みしや」、同25日・「奇蹟なき基督教」、3月18日・「奇蹟なき基督教」、4月1日・「予は何故ゆにてりあんとなりしや」、9月23日・「欧米に於けるユニテリアンの大勢」、同30日・「無名の宗教」、10月14日・「予が会見したる欧米の社会主義者」、同28日・「欧米に於ける青年の気風」、11月4日・「青年自修論」、同11日に「基督の社会的教訓」、明治34年1月13日・「20世紀文明について」、同20日・「20世紀の宗教」、2月3日・「20世紀の都市」、3月24日・「トルストイの宗教的生活」、同31日・「利己心の進化」、5月5日・「人の内に在す神」、同19日・「露国に於ける思想家の位置」、6月2日・「軍人生活の善側面」、同9日・「雀一羽の貴き所以」、7月7日・「宗教に於ける感情の作用」、9月15日・「将来の教育制度」、同29日・「女子と英語」、10月20日・「モルモン教に対する批評」・「苦学に範圍」(以下、略)。

村井知至が『六合雑誌』を舞台に文筆家・社会主義理論家として、またユニテリアン教会・惟一館の演説者・説教者として活躍している姿が彷彿とします。

(文責 間宮悠紀雄)

2. 3/15(土) 出張講演・UAゼンセン富山県支部・第4期「富山塾」②18名

今回は二部構成になっていました。まず第一部は「日本労働運動の100年余」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を80分受講した。特に大きな争議から学んだ労使関係における団体労働協約の重要性、また同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。

第二部では、「したい8原則と実践できるリーダーシップ論」を60分受講。労働者の視点から職場に求めていること8点を具体的に受講した後、「リーダーシップの定義と4つの責任」とリーダーが求められていることを具体的に学んだ。

大変熱心に聞き入った様子であり、その後の懇親会でも大変盛り上がりました。

3. 3/17(月) 団体見学・連合東京新人研修会 3名

連合東京統の3名が来館。展示「日本労働運動の100年余」をDVDを視聴。その後さらに解説を受け、見学。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。さらに理解を深めるために、「日本労働運動の100年余から民主的労働運動を探る」と題して友愛会から連合に至る歴史的経過の詳細を受講。受講後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。皆さんとっても熱心に受講し見学をしていました。

4. お知らせ

友愛労働歴史館は4月28日(月)を臨時の休館にします。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedokishikan.com>

惟一館から130年、友愛会から112年